



新眉山クラブ
馬渡 光春
議員

▼島原道路について

Q 島原中央道路の進捗状況はどうか。

A 八月一日現在、面積ベースで九十九・六%、地権者ベースで九十九・二%。全線で工事に着手しており、トンネル工事は、全長九百五メートルのうち七百三十九メートル掘削。十一月の初めには貫通する。

Q 開通に向けての今後のスケジュールと課題をどう考えているのか。

A 平成二十四年十月までには全線の供用ができるよう工程を組んである。残りの用地取得も鋭意努力されており、市、国、県と一緒に完って完成に向けて努力する。

Q 開通後の効果や課題、対策はどうか。

A 市内中心部の渋滞緩和、災害時の代替道路の機能をあわせ持つことが期待されるが、開通後は広域農道を利用する車が増加する可能性がある（現在も当初計画の五倍）。今後も島原道路の早期の全線開通を関係機関とともに国や県に要望していく。

Q 国、県への建設要望や陳情の状況と見

通しはどうか。

A 民主党幹事長室、地元選出国会議員及び国の関係機関、さらに長崎県知事、県議会議長に対して要望を行った。県知事からは計画路線の出平から愛野間を一刻も早く着手したいと初めての前向きな回答があった。

Q 出平町―愛野町のルートはどうなるか。

A 島原半島地域の交通機能強化検討委員会で、海側、山側、広域農道沿いのルートが示され、費用対効果の面から広域農道に沿った形の可能性が高い。

▼消費者対策について

Q 消費者対策の現状はどうしているのか。

A 市民の相談等に迅速に対応するため、市民相談センターを設置したが、今年四月から島原市消費生活センターを併設し、人員は二名体制で行っている。

Q 長崎県消費者行政活性化計画を県は策定したが、本市の対策はどうか。

A 安心して相談できる体制の充実、専門的な相談にも対応できる体制の整備、啓発事業の強化を活性化方針として策定した。

【その他の質問項目】

◇環境対策について

◇通学路の安全対策について



新緑クラブ
山本 由夫
議員

▼自治体のシンクタンクについて

Q 市長の諮問機関の現状はどうか。

A 広く各界の意見を拝聴する目的から、島原市の条例に基づき報酬が支払われる審議会、委員会等は、現在二十九あり、さまざまな立場から多角的に市の施策について論議いただいている。

Q 長崎都市経営戦略推進会議、長崎サミットの島原版はできないのか。

A この会議は地域の政策形成力を総合的に発揮する存在だと思っているが、できたばかりであるので、本当にそういう力を発揮できるか見守っていく必要があると思う。

Q 市のシンクタンク化の強化と市職員の研修体制はどうなっているのか。

A 今後いろいろな意見を反映させるために各界の皆さんと連携を図りながら、審議会、委員会などで活発な論議をいただくことをお願いしたい。また、職員一人一人が行政のプロとして高い専門能力や先見性、

洞察力を持った市役所になる必要がある。基本的な能力形成として、研修会には積極的に参加するよう職員にも督促している。また、県との人事交流も行っているが、幅広にいろいろな形で交流も取り組んでいく必要があると思う。

▼観光振興について

Q 商品力の強化の現状と見解はどうか。

A 本市には湧水、温泉、歴史、文化、豊かな農産物などの素材があり、こうした素材はすべてジオの恵みである。世界が認めた島原半島ジオパークとして、新たな視点で付加価値をつけながら、商品としてPRしていく必要があると思う。今後も観光資源の掘り起こしと再発見に取り組みたい。

Q 受け入れ態勢の強化はどうか考えるのか。

A 観光協会では旅館組合やタクシー乗務員を対象とした接客サービスの研修を毎年行っている。また、観光ボランティアは定期的な研修を行っており、連絡体制の強化についても協議していただきたいと思っている。また、外国語研修は二十四年に開催されるジオパーク国際ユネスコ会議を見据え、毎週一回、一般と業界を分けて半年間の研修を行う体制をスタートさせたい。

【その他の質問項目】

◇市の事業のフォローについて